

「子育て世代は、田舎暮らしも結構お金がかかる」



この先こういう風にしたいと考えていることや、夢はありますか？

稲毛：国際交流ですね。日本で勉強したり働いたりしている外国の人をホームステイで受け入れているんです。宇治でも、海外の団体を呼んだことがあります。

五月：ぶどう園も夢ですが、最近、障がいで意志の疎通がうまくできない方の気持ちを、指談という方法で伝えている現場を体験して衝撃を受けました。自分の中の偏見や当事者の気持ちを知って、私も手伝いたいと思って、指談を練習中です。

森川：ブドウで一旗揚げられるようになりたいですね。味とか品質にこだわって、経営と両立して、あそこのおいしいよと言ってももらえるようなブドウを作っていけたらなあと思います。

皆川：ブドウをやる人ってみんなどれくらいお金持って田舎に来るんですか？

五月：みんなではないですが、研修には助成金が出る制度があるんです。

皆川：その間に貯金はできるの？

森川：貯金はできません。いろいろ資材が必要で、どうしても厳しいです。でも支援してくれるのでやっていくことはできる。

泰希：やっぱり自分も自己資金も貯めては来たんですけど、充分とは言えないですね。若くして始めようと思ったら貯められるお金も限りがあるから。

皆川：田舎暮らしはお金がかからないように思うけど、子育て世代になると、街よりかかるお金も大きくて。家庭菜園、行き来のガソリン代、町内会費や付き合い費、お風呂のボイラーで灯油代も…。あとやっぱり子どもの進学で悩んでいます。子どもの夢を叶えてあげたいって思ったら、都会に出るしかないのかなって。定期バスが少ないし、自分が送迎するのも毎日は厳しい。「預かるよ。」と言ってくれる人もいるけど、さすがに毎日お願いは出来ないな～って。あこがれだけで、田舎暮らしを続けていくのは無理なのかなあとか最近思う事があって…。

稲毛：だいぶ相談をしたんよな。私の知合いの広く県内を分かってる人も一緒になって。通学もあんまり遠くまで行くのはどうかなって意見が出てたね。

ソミヤ：星川さんのこのお宅はとても立派で旅館になりそうですね。

星川：最初はね、この家で民宿したいなあって気持ちがあったんですよ。

皆川：民宿で雇ってくれたらいいのに。家か



ほしかわつとむ
星川 勉さん

古民家や田舎の暮らしに憧れて、定年後に札幌から移住。田舎暮らしはのんびりではなく、忙しい毎日。宇治5年目。



いなげ よしひろ
稲毛 良泰さん

大阪出身。倉敷から宇治の古民家へ移住。宇治地域市民センターの館長を勤めて5年目。宇治9年目。

(注1)高梁のトマト栽培
高梁市は岡山県を代表するトマトの産地。「桃太郎トマト」は県内で約5割の生産量を占める。

(注2)牧野さん
宇治「住むか暮らす会」の代表。宇治のまちづくりの中心的存在。